

JENESYS2022 日本人大学生のフィリピン派遣の記録 (開発・経済交流)

1. プログラム概要

【目的】日本の大学生が、日本とフィリピンの関係や同国の発展に向けた日本の貢献について学ぶとともに、フィリピンの人々へ日本の開発援助や経済に関する紹介を行いました。このプログラムはフィリピンにおける日本についての理解促進と両国の相互理解の向上を目的に実施しました。

【参加者】日本の大学生 計 9 名

(東海大学(札幌キャンパス) 3 名、東北大学 3 名、和歌山大学 3 名)

【訪問地】フィリピン共和国(マニラ)

【日程】

■ 事前学習(オンライン)

2022 年

11 月 4 日(金曜日) 【講義・質疑応答】派遣国理解・テーマ関連講義
「フィリピン概要」

講師：在フィリピン日本国大使館 専門調査員 向川 友理絵氏

2023 年

2 月 14 日(火曜日) 【出発前オリエンテーション】本事業の目的・参加者ミッションの再確認
現地プログラムのスケジュール、安全管理等の説明

■ 渡航プログラム

2 月 28 日(火曜日) 成田国際空港より出国

フィリピン共和国 ニノイ・アキノ国際空港より入国

【文化視察】マニラ市内、リーサル公園、サンチャゴ要塞、サン・アグスティン教会

3 月 1 日(水曜日) 【視察・講義・質疑応答】ココナッツ庁「フィリピンにおけるココナッツ産業の現状」講師：同上 貿易情報・関係部部長 ルス・ブレンダ・P・バリブレア氏

【表敬訪問・交流】ナショナル・ユース・コミッション(NYC)、昼食会

【講義・質疑応答】「JENESYS スタディツアー」講師：独立行政法人国際協力機構(JICA) フィリピン事務所 ミンダナオ班 班長 高野 由季氏

3 月 2 日(木曜日) 【学校交流】デ・ラサール大学(De La Salle University) 交流校発表(フィリピン紹介)、参加者発表(日本の紹介：四季・農業・アニメ・マンガ他)、ワークショップ(折り紙)、ディスカッション「コロナ禍の観光産業について」

【企業視察】丸紅フィリピン会社、ライトレール・トランジット・オーソリテイ

- 3月3日（金曜日） 【学校交流】アジア・インスティテュート・マリタイム・スタディ（AIMS）参加者発表（同上）、交流校発表（学校紹介他）、ディスカッション等
【講義・質疑応答】「フィリピン経済の最新事情と進出日系企業の動向」講師：独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）マニラ事務所所員 ディレクター 吉田 暁彦氏
- 3月4日（土曜日） 【交流】バタサン ヒルズ地区住民、バタサン ヒルズ地区の青年団による地区の紹介、日本のゲーム紹介
【ホームビジット】バタサン ヒルズ地区家庭
- 3月5日（日曜日） 【ワークショップ】 報告会準備
- 3月6日（月曜日） 【大使館表敬】在フィリピン日本国大使館
【報告会】派遣成果・帰国後の活動計画（アクション・プラン）発表
ニノイ・アキノ国際空港より出国
- 3月7日（火曜日） 羽田国際空港より帰国

2. プログラム記録写真

事前学習

	
2022年11月4日【講義・質疑応答】派遣国理解・テーマ関連講義「フィリピン概要」（在フィリピン日本国大使館）	2022年11月4日【講義・質疑応答】記念撮影（在フィリピン日本国大使館）

渡航プログラム

	
2023年2月28日【文化視察】サンチャゴ要塞	2023年3月1日【視察・講義・質疑応答】ココナッツ商品を試飲する参加者（ココナッツ庁）

	
2023 年 3 月 1 日【表敬訪問・交流】ナショナル・ユース・コミッション（NYC）記念撮影	2023 年 3 月 2 日【学校交流】デ・ラサール大学 記念撮影
	
2023 年 3 月 2 日【学校交流】デ・ラサール大学 ワークショップ（折り紙）	2023 年 3 月 2 日【企業視察】丸紅フィリピン会社
	
2023 年 3 月 2 日【企業視察】ライトレール・トランジット・オーソリティ（LRTA）	2023 年 3 月 3 日【学校交流】アジアン・インスティテュート・マリタイム・スタディ（AIMS）
	
2023 年 3 月 3 日【講義・質疑応答】独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）「フィリピン経済の最新事情と進出日系企業の動向」	2023 年 3 月 4 日【交流】バタサン ヒルズ地区の青年団と交流
	
2023 年 3 月 4 日【ホームビジット】	2023 年 3 月 5 日【ワークショップ】

	
2023 年 3 月 6 日【報告会】	2023 年 3 月 6 日【報告会】

3. 参加者の感想（抜粋）

◆ 大学生

今回のプログラムを通じて、農産業や、国際協力、公共交通、海事、貧困など、さまざまな分野の重要な機関の方々と交流することができ、自分の知識の幅が広がりました。たくさんのフィリピンの学生と仲良くなることができたこと、他大学の優秀な日本人学生と仲良くなれたことも私にとって大きな刺激になりました。今後も出会えた皆さんと良い関係を築いていきたいと思っています。引き続き、英語の勉強や、社会の様々な分野の知識の収集を継続しようと思っていますし、今回学んだことは今後の進路選択に活かしていきたいです。本当に良い経験になりました。ありがとうございました。

◆ 大学生

個人的にホームビジットが特に印象に残っています。裕福ではない暮らしをしている人が多いエリアでしたが、皆笑顔を絶やさず家族で支え合っていました。日本は、働いてお金を稼ぐというイメージですが、フィリピンでは家族を支えるため働いていてその点が日本と違うと思いました。

◆ 大学生

ホームビジットをする地域（バタサン ヒルズ地区）の方々との交流がとても印象的でしたし、ホームビジットも短い時間ではありましたが、実際に家庭に行き現地の生活を体験することができました。LRTA の視察では整備場の見学や実際に乗車もでき、丸紅や JICA についても学ぶことができました。

4. 受入れ側の感想（抜粋）

◆ 視察先関係者

このような機会がない限り、弊社のフィリピンでの活動を日本の学生達に知っていただくことがないため、今回受け入れをして大変良かったと思っています。また機会があればぜひご協力をさせていただきたいです。このような人材交流が益々発展していくことを祈念致します。

◆ 交流校学生

日本からいらした学生さん達を歓迎するイベントを体験できたのは素晴らしい機会でした。JENESYS 参加者みなさんとの交流ができて感謝しております。お互いが持つ知識を発表しあうことで、フィリピンと日本についての学びを共有し合え、感謝しております。

交流校学生

JENESYS プログラムは刺激的で、学生と国がつながる良い機会でした。とても親切な日本の

スタッフや学生との交流を楽しむことができました。準備中、この特別なイベントに緊張と興奮が同時にありました。また皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

5. 参加者の対外発信、報道記事等（抜粋）

	
2023 年 3 月 5 日（Instagram） ホームビジット 今日は朝からケソンシティのバタサン ヒルズ地区へ。初めにバタサン ヒルズ バランガイホールを見学しました。入る時から歓迎を受け、最後にはカバンや手帳など多くのプレゼントをいただきました。街の安全管理や消防所、相談所としての役割もあり、住民にとってなくてはならない存在だそうです。 バタサン ヒルズ地区に住む学生と一緒に、ゲームを通じて交流を深めた後、フィリピンのソウルフードのジョリビーを食べてホームビジットへ向かいました。 ホストファミリーはとても親切で周りの子供たちからも人気がありました。この日は祝日だったので学校はお休み。休みの日は家の外で遊ぶことが多く、彼女もバトミントンをすると話していました。家族想いのフィリピン人が休日を共に過ごす様子を垣間見ることができました。それにしても、子供たちは人懐っこいです。お菓子をあげても、あげなくても、珍しいお客さんのようで、後をついてきます。カメラを向けるとすぐにピース。 日本の子供も同じなのかな… 将来は数学か国語の教師になりたいと話していたホストファミリーの娘さん。共に夢を話した時間は異国でありながら心地よかったです。	2023 年 3 月 6 日（Instagram） 表敬訪問・報告会 最終日に在フィリピン日本国大使館にてプレゼンテーションをしました。 現地で経験や学び日本へ帰国した後も、大学の友人へ伝えることをアクション・プランとして発表しました。 早速、今月の 19 日には東海大学のオープンキャンパスにて体験報告会を行う予定になっています。

	2023 年 3 月 3 日 (YouTube) JENYSYS Outbound Program for University Students! 交流校 AIMS が交流の様子を YouTube 配信
---	---

6. 日本の魅力紹介・発表内容（抜粋）

東北大学	
	 
■ 日本とフィリピンの経済・開発関係 ● 貿易－輸出と輸入の製品比率： ● 日本とフィリピンの両国での事業展開 ① フィリピンにおける日本の事業（業種） BPO（ビジネス プロセス アウトソーシング）事業：コールセンター、トランスクリプション（記録転写）、ソフトウェア開発、コンテンツ制作 ② 日本における事業－英語教育：JET プログラム ③ フィリピンへの事業展開概要 日本企業のフィリピン進出（2021）1,377 企業 日本の製造業が中期的（3 年程度）にビジネスを拡大するために有望な国・地域 8 位 日本の製造業が長期的（10 年程度）に事業展開する際に有望な国・地域 7 位 ● 両国の支援例 ① 日本：政府開発援助（ODA）による支援（巡視船、地下鉄、電車等） ② フィリピン：東日本大震災時の支援 ■ 日本の農業の特徴 ● 農地面積が小さい：土地の多くは山岳地帯 → 段々畑、化学肥料 ● 人口の高齢化：農家人口の減少と高齢化 ● 食料自給率の低さ：食料自給率の低下、食生活の変化 ● 稲作が主な作物：お米が主食、フィリピンへ農業機械を支援	
和歌山大学	
	 

「マンガ、アニメ」

日本の魅力として、マンガとアニメをクイズ形式で発表

■ このキャラクターが登場するマンガまたはアニメは何でしょうか？

- 質問 1 の回答：「鬼滅の刃」

累計発行部数 1 億 2 千万部達成

公開から 73 日間の興行収入は 324 億円

- 質問 2 の回答：「One Piece」

- ① 「最も多く発行された単一作者によるコミックシリーズ」でギネス世界記録に認定
- ② アニメは 23 年間放送され続けている

■ 日本はアニメ・マンガ大国！！

- ① 2023 年冬、100 本以上のアニメが放送！毎日 15 本以上のアニメが放送されている
- ② マンガ・アニメ・ゲーム好きな人たちによる "オタク文化 "の醸成
- ③ USJ（Universal Studios Japan）にはアニメとコラボしたアトラクションがあり、大変盛り上がっている！

■ 「オタク」文化

- ① 東京・秋葉原はオタク文化の中心地
- ② コミックマーケットは、世界最大級の同人誌即売会

■ 海外でのアニメ人気

- ① ドラゴンボールは 96 の言語に翻訳されている（2019）
- ② 北米で開催されるアニメエキスポには 70 カ国以上から人が集まる

■ USJ ではアニメとのコラボイベントが盛りだくさん。

■ ベスト・マンガ&アニメ・トップ 4

- ① スラムダンク
- ② ハイキュー！！
- ③ 進撃の巨人
- ④ チェンソーマン

東海大学



「日本の紹介ー文化と概要ー」

■ 日本文化「折り紙」

- ① 折り紙の歴史
- ② 折り紙の現状
- ③ デモンストレーション
- ④ 一緒に折ってみましょう

■ 「日本」

日本の国旗の意味を知っていますか？

- ① 赤い日の丸は、日の出を象徴しています。
- ② 赤と白は日本の伝統色であり、縁起が良いとされています。

■ 「日本情報」

- ① 人口：1億2,570万人
- ② 面積：378,000キロ平方メートル
- ③ 東西の長さ：3,146km 北から南までの長さ
- ④ 南北の長さ：2787km

7. 報告会でのアクション・プラン発表（抜粋）

東北大学



■ 貴重な体験を通して

- ねらい
 - ・ 政府開発援助（以下、ODA）をより良い方法を検討する際、複数の視点から検討する
 - ・ 文化を肌で感じる
- 計画
 - ・ ODA がフィリピンの開発をどのように支えているかを学ぶ
 - ・ 地元の人と積極的にコミュニケーションをとる
- 考察
 - ・ 日本の発展の魅力
 - ・ 東北大学の他の学生と一緒に体験し、フィリピンの状況を知ってもらう

■ アクション・プラン

1. 日本の鉄道の魅力発信

- ・ 理由：日本の鉄道は技術力が高く、世界中の人々から高い評価を得ている。フィリピンをはじめ、多くの国で日本の鉄道の技術が使われていることに気付いたため。
- ・ 発信内容：日本の鉄道の技術的なポイント、列車への関心度、新開発の電車、日本の駅の特徴等
- ・ 実施方法：インスタグラムのリールを使用し、乗車体験を共有します。
- ・ 目標：高い技術力を誇る日本の魅力を、日本の鉄道を通じて外国人に伝えること。

2. 東北大学の国際交流の場『OASIS（オアシス）』で、JENESYS プログラムを紹介

- ・ 実施理由：フィリピン人とのコミュニケーションを通じて、フィリピンの本当の文化を学

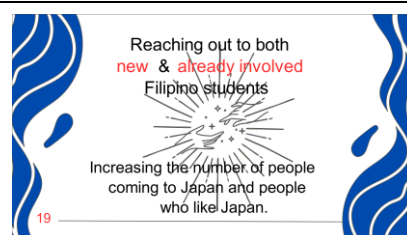
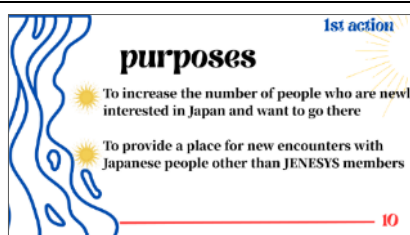
び、彼らの優しさ、ホスピタリティ、明るい人柄に魅了されたため

- ・ 実施内容：JENESYS プログラムでの経験と、フィリピン人の素晴らしさを伝えます。
- ・ 実施方法：5 月に「OASIS」で東北大生に向けてプレゼンテーションを実施
- ・ 目標：東北大学の学生にフィリピン興味を持ってもらい、知ってもらう

3. 共通課題検討

- ・ 実施理由：違法船や領土問題はフィリピンとの共通の問題であるが、多くの人がその問題に関心がないことがわかったため
- ・ 実施方法：オンライン討論会－法学部の学生及び AIMS の学生（6 月開催）
- ・ 目標：法学部の学生に違法船問題や領土問題を考える機会を与える

和歌山大学



「『新しい出会い』と『また会いましょう』交流」

■ 私たちの気づき－交通面、安全面をフィリピンと比較

- ・ 日本は安全であり、観光で人を呼びやすい国
- ・ 観光地として選ばれる競争力があると分かった

■ 2つのアクション・プラン

1. 「新しい出会い」の創出

フィリピン学生の友達や JENESYS メンバーの友達向けに Zoom セミナーを開催

・ 実施目的

新たに日本に興味を持ち、日本に行きたいと思う人を増やすため

JENESYS メンバー以外の日本人との新しい出会いの場を提供するため

・ 実施方法

Zoom を利用して、JENESYS プログラムで知り合ったフィリピン学生の友達を招待し、日本の魅力を紹介します。グループ別に交流をして、終了後にアンケートを実施します。

・ 効果

日本を知らない人に日本の魅力を紹介でき、日本で新しい友達を作り、友達に会うために日本に来る人も増えるでしょう。

2. 「また会いましょう」と、日本へ友達を誘う

JENESYS メンバーと JENESYS プログラムで出会ったフィリピン学生とのオンライン交流会を開催します。

・ 実施目的

JENESYS プログラムで出会ったフィリピン学生と連絡を取り合い、関係を深めるため
フィリピンの学生に日本で私達に会いたいと思っていただくため

・ 実施方法

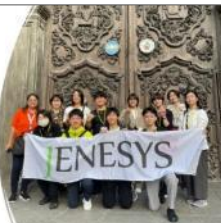
フィリピンの学生と、ディスカッションやプレゼンテーションではなく、カジュアルなトークを行います。

人間関係と友情の継続を最優先します。

- ・ 効果

この交流で知り合ったフィリピン学生が来日することが見込まれる

東海大学

Resolution - experience authentic Filipino food - I want to learn about life by actually visiting the region, and I want to look at Japan from a foreign perspective - historical buildings in the Philippines - experience Japanese and things that are different from those in Japan 	Traffic environment Car→Traffic jams during commuting to and from work and during rush hour going home. Train→There was thorough security when taking the train and well-equipped commercial facilities near the station when in urban areas. 	Action plan 3 <table border="1"> <tr> <td>Contents</td> <td> • Who :Students, parents, and professors at all Tokai University campuses. • What :Summarize the above activities. </td> </tr> <tr> <td>Method</td> <td> • How :Tokai University Newspaper to be disseminated. • Where :in the university. </td> </tr> <tr> <td>Effect</td> <td> • Why :To publicize our activities at the university and let many people know about them. </td> </tr> </table>	Contents	• Who :Students, parents, and professors at all Tokai University campuses. • What :Summarize the above activities.	Method	• How :Tokai University Newspaper to be disseminated. • Where :in the university.	Effect	• Why :To publicize our activities at the university and let many people know about them.
Contents	• Who :Students, parents, and professors at all Tokai University campuses. • What :Summarize the above activities.							
Method	• How :Tokai University Newspaper to be disseminated. • Where :in the university.							
Effect	• Why :To publicize our activities at the university and let many people know about them.							

■ フィリピンでの気付きや違い

- 交通環境

車 →通勤・通学時や帰宅ラッシュ時の交通渋滞

電車 →電車に乗る際のセキュリティが万全で、都市部では駅周辺の商業施設も充実していた

- 建物

見た目は日本とそれほど変わらないが、フィリピンは都市部にビルが集中している

■ アクション・プラン

1. アクション・プラン①

- ・ 実施内容：大学1年生に向けて、JENESYSプログラムでの活動報告を行います。
- ・ 実施方法：1年生の必須科目の授業でパワーポイントを使用して実施します。
- ・ 目的：大学生活の早い時期に、海外やJENESYSプログラムについて周知するため

2. アクション・プラン②

- ・ 実施内容：JENESYSプログラムに参加した国際交流サークルのメンバーが、フィリピンに関する活動報告やクイズ、ゲームなどを行います。
- ・ 実施方法：クラブルームを使用して、パワーポイントを使用した発表とアクティビティを行います。
- ・ 目的：国際交流に興味のある学生達に周知するため

3. アクション・プラン③

- ・ 実施内容：東海大学全キャンパスの学生、保護者、教授を対象に、活動報告を実施します。
- ・ 実施方法：東海大学全キャンパスで配布される東海大学新聞に活動報告を掲載します。
- ・ 目的：この活動を大学内で公表し、多くの人に周知するため

実施団体名：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）